



海外生活 エッセー

シンガポール事務所

街中で出会う動物たち ～草むらから動物たちが飛び出した！～

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 清水 健太 (愛知県一宮市派遣)

→ CITY IN A GARDEN

シンガポールは今でこそ世界でも有数の大都会ですが、元々は熱帯雨林いわゆるジャングルでした。現在も緑に囲まれた都市「CITY IN A GARDEN」を緑化政策のテーマとしており、公園・緑地面積を 57km² (2010年) から 72.5km² (2030年) へ拡大していくこと、2030年までに 85% の世帯が公園まで 400m の範囲内に居住することを目標にしています。現在、市街地のすぐそばにガーデンズバイザベイやフォートカニングパークなどの大きな公園があり、これらの公園には熱帯雨林の木が多くあることから、大都会の中にもジャングルの面影を感じることができる街になっています。

→ ビルの谷間にオオトカゲ

このように緑豊かなシンガポールですが、街中に熱帯雨林があるためか、街中でもよく野生の動物を見かけます。ヤモリやリスと言った小型の動物からサルやカワウソ、オオトカゲなど大きな動物にも出会うことができます。これらの動物たちは、サル以外は人間に危害を加え

るということもあまりないのですが、危なくないとわかっていてもオオトカゲを見かけたときはとても驚きました。私の住む駅には駅のすぐそばに草むらがあるのですが、ある日 1m はありそうなオオトカゲが草むらから現れました。1m のオオトカゲがいきなり目の前に現れると言うのは衝撃的な出来事でしたが、一緒にいた私の息子は「恐竜の赤ちゃんだ！」とって大興奮でした。街中にこれほど多くの動物が現れるのはまさにシンガポールならではの光景ではないでしょうか。

→ 帰ってきたカワウソ

シンガポールでは、カワウソは昔から住んでいたものの 1990 年代頃にはあまり見なくなっていたそうです。カワウソは綺麗な川にしか住まないそうで、1970 年代、急速な工業化や都市化の影響により環境汚染が深刻化した影響だと思われます。しかし、現在では街中でカワウソの姿を見ることができるので、シンガポールの環境政策が実を結び川が綺麗になったからだと思います。

近代化が目立つシンガポールですが、自然との共存もうまくいっていると感じました。



1m はありそうなオオトカゲ



コンドミニアム内を歩くリス



川から上がってきたカワウソの群れ